

過去の過ちを悔やんでいませんか？（令和3年3月号）

西郷どんの教えその27

間違ったことを改めるには、自分が誤ったと自覚すればそれでよい。そのことをきっぱりと思い棄てて、直ちに一步前進することが大事である。間違ったことをくよくよして何時までも悔しく思い、心配することは、例えば茶碗を割ったとき、そのかけらを集め合わせてみることと同じことで、どうしようもないことである。

これは自分自身に言い聞かせている。「過ちと知りながら反省を怠り、なお改めようとしないことが本当の過ちである」と。常に自問自答しながら行動を起こしていても「つい」という瞬間があるし、この弱さがあるが故、人は反省し、また一步踏み出すことができる。

過ちはいいとは言い難いが、悪かったという反省の気持ちが大事であることは間違っていないし、未来への扉を開ける行動なのかもしれない。